

2022年10月31日

各位

株式会社三井住友銀行

株式会社オープンハウスグループに「ESG/SDGs評価シンジケーション」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取CEO：高島 誠）は、株式会社オープンハウスグループ（代表取締役社長：荒井 正昭）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」を実施いたしました。

「ESG/SDGs評価シンジケーション」は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、ESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（※2）（持続可能な開発目標）達成への貢献を評価し、取組や情報開示の適切さについての現状分析、今後の課題、課題への取組事例等を還元させていただく融資商品です。

今回対象となりました株式会社オープンハウスグループは、企業経営において、一定のESG配慮及びSDGs達成に向けた取り組みと情報開示を実施されていると評価されました。

ESG配慮への取り組み及び情報開示においては、以下の点等が評価されました。

- ① ESGの要素を経営や事業戦略に組み込んでいくため、サステナビリティ委員会を設置。マテリアリティの項目ごとにESGリスクとその対応への進捗状況を各事業部門・グループ会社ごとに管理するなど、ESGの視点で新たな社会価値を創造するためのマネジメント体制を強化している点
- ② 自社の事業活動に伴う環境負荷を削減するため、2050年に向けた長期環境ビジョン（GHG排出ネットゼロ）と2030年に向けた定量的な環境目標（Scope1,2排出原単位を2018年度対比46%削減）を設定（※1）。また、初期費用を設置工事費のみとした太陽光発電設備導入サービス「ずっとソーラー」を提供するなど、気候変動への適応や災害時の備えとなるサービスを提供している点
 （※1）株式会社オープンハウス及び株式会社オープンハウス・ディベロップメントにおいて展開する戸建関連事業を対象とするもの。
- ③ ITシステムを内製化し、物件資料の取得や宅地の区割りの自動化、物件情報の整理・保存システム等の構築により、業務の効率化を進めている。また、人口減少や少子高齢化等を社会的課題として認識し、様々な地域でステークホルダーと協働しながら「地域共創プロジェクト」を実施している点

加えて、事業を通じて、SDGsが示す「目標7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、「目標15：陸の豊かさを守ろう」等に貢献されています。

三井住友銀行では、お客さまのサステナビリティ経営に向けたソリューションの提供や対話を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

<ONE TREE, MAKE A FOREST PROJECT>



都心部での戸建設計の経験値と企画力を活かし、玄関先等の僅かなスペースに植栽を設ける工夫を取り入れるなど、緑のある環境づくりを目指しています。

<地方共創プロジェクト：CRANE THUNDERS ONGAESHI>



プロバスケットボールクラブ 群馬クレインサンダーズを通じて、「オフコートの3P（*2）」をコンセプトに、よりよい未来に貢献できるよう、社会的責任活動をリードします。

（*2）Planet（地球を守る）、People（支援が必要な人に手を差し伸べる）、Peace（平和・安心安全）

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上